令和５年２月８日発行

栗原普及センターだより「くりはら」153号

彩りが映える「ディスバッドマム」

栗原管内では,きく類,鉢もの･花壇用苗もの類などの花きが生産されています。

特にきく類では一迫地区で主にスプレーぎくが生産されており,近年では,「ディスバッドマム」というタイプのきくも栽培が行われています。

「ディスバッドマム」とは,dis(ディス)=除去する･bud(バッド)=脇(わき)芽(め)･mum (マム) =きく,という意味で,1本の茎に花が1輪だけ咲いている西洋ぎくを指します。1つの蕾だけを残して他は摘み取ることで栄養が集中し,花は大きく華やかになります。

生産者の方々が丹精込めて育てた「ディスバッドマム」をアレンジメントとして,御家庭に彩りを添えてみてはいかがでしょうか。

令和４年度プロジェクト課題活動報告

プロジェクト課題No.1　栗っこズッキーニの産地PR

ＪＡ新みやぎ栗っこズッキーニ部会を対象に，生分解性マルチへの転換や立体栽培の取組による，環境にやさしく，かつ軽労化を図るための技術検証と，ズッキーニ産地としてさらに成長するための安定生産，知名度向上のためのＰＲについて支援を行いました。

ＰＲ支援については，初めてInstagramを活用し，「栗っこズッキーニもっともっとキャンペーン」を行いました。これは，『#栗っこズッキーニキャンペーン』を付けて自慢のズッキーニ料理をInstagramに投稿していただくものです。たくさんの方々に目にも鮮やかで美味しそうなズッキーニ料理を投稿していただきました。投稿した方の中から抽選でズッキーニをプレゼントしましたが，当選した方々からはキャンペーン終了後もInstagramに投稿していただくことができ，効果的なＰＲになりました。

【投稿されたズッキーニ料理】

プロジェクト課題No.2　加工用ばれいしょ栽培振り返り会を開催しました

金成津久毛地区において，加工用ばれいしょの導入･定着へ向けた支援を行いました。

令和４年10月28日（金），迫川上流土地改良区事務所を会場として，「加工用ばれいしょ栽培振り返り会」を開催しました。

今回は，令和４年産加工用ばれいしょの栽培を振り返り，改善点を関係者で共有することで次作の収量及び品質向上に繋げることを目的とし，管内のばれいしょ生産者，カルビーポテト株式会社の担当者のほか，関係機関の担当者が出席しました。

普及センターからは，生育及び収量調査結果，次作に向けた栽培のポイントを説明しました。カルビーポテト株式会社からは，他産地共通の栽培上の留意点について説明がありました。

生産者は今年の栽培を振り返り，成果や課題が整理されたことで，次作への改善意欲が高まった様子でした。

当普及センターでは，高収益作物としてのばれいしょ定着に向け，来年度も継続して支援していきます。

【加工用ばれいしょ栽培振り返り会】

プロジェクト課題No.3　集落の維持･発展を目指す法人経営体へのステップアップ

平成19年に設立された有賀営農組合（栗原市若柳）は，有賀地区の農地を今後も維持発展させるため，法人化に向けた先進事例の視察や勉強会など，幾度となく検討を重ねてきました。

令和３年度には専門家の指導を受けながら，有賀地区にあった法人の形態を模索し，集落ぐるみ型農事組合法人の設立を目指して，法人化に向けた準備を本格的にスタートさせました。

令和４年度には，法人化したときの経営シミュレーションや運営のためのルール作りなど，具体的な法人像を役員皆でコツコツと作り上げ，その形がようやく見えてきました。

令和５年春の法人設立を目指し，２月に全組合員へ集落説明会を開催しようと，役員一同さらに力が入っています。

【法人経理について税理士から指導を受ける役員】

使用前にもう一度，「農薬ラベル」を確認しましょう

プロジェクト課題No.4　集落営農における大豆生産及び法人経営の安定化

若柳地区の農事組合法人ふくおかを対象とし，大豆生産と法人経営の安定化を支援しました。本年は，７月中旬の大雨によりほ場が冠水し，一時大豆の生育が停滞しましたが，中耕培土等の排水対策の実施により，生育が回復し，収穫を迎えることができました。

土壌分析結果に基づいた鶏ふんを活用した施肥や，ミヤギシロメの蔓化・倒伏抑制のための摘芯など，管理作業が適期に行われるよう定期的な巡回指導を行いました。その結果，ミヤギシロメは蔓化・倒伏が抑えられ，大雨の被害を受けたものの，ほぼ平年に近い収量を確保することができました。

来年度は雑草対策を中心に，大豆生産安定のために引き続き支援を行っていきます。

【大豆の刈取適期判定巡回】

栗原地域園芸振興セミナーを開催しました

令和５年１月18日（水），昨今の肥料高騰を受け，園芸栽培における施肥コスト低減技術の紹介と化学肥料の代替としての家畜由来堆肥の有効活用を目的に，県栗原合同庁舎を会場に「園芸振興セミナー」を開催しました。

はじめに，県農業・園芸総合研究所瀧上席主任研究員から土壌分析値の活用方法や堆肥の原料別肥料効果について分かりやすく解説いただき，続いて，情報提供として栗原市から栗原市有機センター堆肥について，普及センターから市内堆肥生産・販売業者，土壌分析について紹介しました。

セミナー当日は，農業者・関係者合わせて50人の参加があり，熱心な質問が飛び交い関心の高さがうかがわれました。

【栗原地域園芸振興セミナー】

女性農業者のための農作業安全基礎研修会を開催しました

令和４年 11 月 11 日（金），新みやぎ農業協同組合一迫営農センターで，「女性農業者のための農作業安全基礎研修会」を開催しました。

当日は管内女性農業者７名が参加し，農作業安全に関する基礎知識を学ぶとともに，安全な農機具（刈払機）の使い方及び点検整備等を体験しました。

研修会でははじめに，丸山製作所 南東北営業所 杉野寛樹所長より，刈払機や刈刃の種類，作業を安全に行うための注意点等について講義を頂きました。続いて，講義での内容を踏まえて，刈払機の使い方，メンテナンス方法について実演いただいた後，参加者全員が刈払機の操作実習を行いました。

参加者は，刈払機の使い方及び点検整備等について再確認することができたようでした。普及センターでは，今後も研修会等を通じ，女性農業者の資質向上や働きやすい環境整備を支援していきます。

【女性農業者のための農作業安全基礎研修会】

農作業事故防止に努めましょう ！

令和４年度宮城県農林産物品評会にて農林水産大臣賞を受賞！

令和４年10月22日（土），23日（日）にせんだい農業園芸センターで開催された令和４年度宮城県農林産物品評会及び花き品評会には，栗原管内から農産物27点，花き17点が出品されました。審査の結果，水稲（うるち玄米）を出品した有限会社狩野農友（代表取締役　狩野常幸氏：栗駒）が見事に農林水産大臣賞を受賞されました。

有限会社狩野農友は，平成12年1月に設立した農業法人で，平成30年度に引き続き，２回目の農林水産大臣賞受賞となりました。米の生産に加え，集荷や農産物検査業務，販売まで一貫した経営を行っており，「生産現場から食卓までみんなの笑顔を絶やさないような経営」を目指しています。集荷では，地域産米の品質向上に努め，販売では，出荷先の消費者ニーズに合った品位の米を厳選して提供を行っています。

また，狩野代表は，栗原４Hクラブ会長や宮城県農業青少年クラブ連絡協議会会長を歴任，農業士会活動の推進に協力するなど，地域農業振興や農村青少年の育成のための組織活動を通じ，地域貢献されてきました。今後は，生産や集荷の規模を拡大して経営の安定化に努めることで，地域への安定的な貢献を目指したいとのことです。

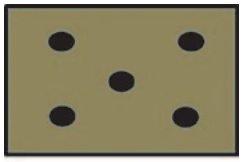
【表彰式の様子（左：有限会社 狩野農友
代表取締役 狩野常幸氏）】

普及センターでは土壌分析を行っています

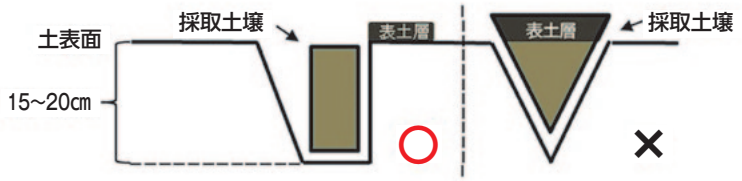
近年の世界情勢から，肥料原料価格が高騰しており，肥料価格が大幅に値上がりしています。値上がりの影響を抑えるためにも，土壌分析を活用して施肥設計を見直してみませんか？

土壌診断のメリット
○土壌養分の過不足が分かり，作物の収量・品質が安定します
○適正な施肥量が分かることで，肥料代を抑えられる可能性があります

～土の採取例～　⚠ 必ず施肥前に採取してください ⚠



１つのほ場から，５ヶ所採取した土をよく混合し１点にまとめてください（土壌中の成分はばらつきが大きいため）。そこから，ご飯茶碗１杯分ぐらいを取り分けます。採取の際は，表面の植物残さやゴミは除き，表面から10～15cmの深さから土を採取します。



分析結果をお返しするときに間違わないように，**土を入れた袋や容器には名前と番号（複数のほ場を分析依頼する場合に区別するため）を記載してください。**

生育不良が見られるほ場では，良いところと悪いところに分けて採取すると，生育不良の原因の解析につながる可能性がありますので，分けて採取してください。

土の受付は普及センターまたはJAで行っています。

採取した土が乾いている場合，結果は通常2週間ほどでお知らせします。※受付点数で前後します。

栗原農業改良普及センター　〒987-2251 宮城県栗原市築館藤木 5-1 Tel:0228-22-9404 Fax:0228-22-6144

この「普及センターだより くりはら 第153号」は、870部印刷し、１部あたりの単価は28.80円（税別）です。